

新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル

【1】 大会を実施するにあたっての感染症対策

- ① 3密を回避する配慮を徹底して行う。
- ② 競技者、関係者の自覚（自ら自分の身を守り、他人に感染させない）を促す指導をする。
- ③ 活動再開ガイドラインと施設利用に関するガイドラインを遵守する。

【2】 具体的な対策

① 大会への移動方法について

- ・交通手段については感染リスクの少ない方法での現地集合をお願いする。

② 各場所の集合形態について

- ・「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」「手指消毒、手洗い」の徹底をする。

③ 健康チェック・参加要件について

- ・大会当日までの JAAF 体調管理チェックシート（スポーツ協会 HP 掲載）を本人・家庭の責任のもと作成し、本人が健康であることを確認した上で、未成年者は保護者に参加の承諾をもらう。症状がある場合は団体責任者に報告し、大会への参加は自粛する。

- ・当日朝、大会参加前の受付時に健康チェック表（兼参加承諾書）を提出する。

※競技に参加する選手だけでなく、マネージャーや競技に参加しない者についても、来場する際は健康チェック表を提出しなければならない。大会4日前から当日までの間に該当するに○がある場合は出場・観戦を自粛する。

- ・試合後も来場した関係者すべてが健康チェックを続け、症状が4日以上続いた場合には各団体責任者に連絡する。責任者はスポーツ協会に連絡し、該当者の健康チェック表を回収・提出し、その後の指示を仰ぐ。

④ IDカードについて

- ・IDカードは、JAAF 体調管理チェックシート（スポーツ協会 HP 掲載）を提出した個人または団体に配布する。

- ・観客席、招集所等に入場するにはIDカードの提示をしなくてはならないため、常に携帯し、紛失等に注意すること。

⑤ 選手の動線について

- ・競技場への出入りについては、招集所からの入場、100mスタート後方ゲートからの退場という流れで行う。トラックレースのゴール後はそのまま競技場を左回りに歩き、各種目のスタート地点まで戻る。この間、他の選手との距離を1m～2m空けて歩き、会話や握手・ハイタッチ等は禁止と

する。ただし、ホームストレートで実施される種目については、スタンド下の通路を通行してよいこととする。

⑥ 招集の方法について（プログラム記載の競技注意事項を確認すること）

- ・選手の密集を避けるため、トラック競技の招集所は 100m スタート地点付近の器具庫の外（競技場外）に設ける。また、フィールド競技の招集は、全て現地で行う。
- ・招集時刻についても必ず確認すること。密を避けるため、招集時刻の 5 分以上前に来ることは禁止とする。
- ・欠場の選手がいる場合、各チームの責任者は必ず、競技者係に申し出ること、選手の DNS 等を逐一連絡する。
- ・フィールド種目の待機場所では 1.5m 間隔で指定場所を作成する。

⑦ 服装等について

- ・全員のマスク着用（選手が競技時は外してよいが、待機中は着用する）を依頼する。
- ・審判員は、ビニール手袋・軍手の使用も推奨する。

⑧ 各チームの対策について

- ・各チームでテントやシートでベンチを作る場合は、平素よりもスペースを広めに取ることと、ベンチ内で密集しないよう徹底する。また、そのことを係員が巡回指導を行って徹底する。
- ・大会中、仲間との握手やハイタッチ、ハグ等の行為がないよう事前に各チームで徹底する。
- ・当日出たゴミについてはチームで責任を持って持ち帰る。

⑨ 観客席について

- ・スタンドは、選手控え場所・応援場所居場所として開放する。
- ・観戦希望者の受付場所は、正面入り口付近に開設される T I C（テクニカルインフォメーションセンター）とし、必ず体調管理チェックシートを提出し、IDカードと観戦履歴用紙を受け取る。
- ・観戦時、自分の座席番号等の情報を観戦履歴用紙に記録し、帰りに T I C へ提出する。
- ・観客席への出入り口は、スタンドの 1ヶ所のみとし、IDカードで管理することとする。
- ・声を出しての応援は禁止とする。
- ・係員が巡回し、観戦者が密集することがないように徹底する。

⑩ 消毒対策について

- ・各チームで消毒液を持参し、選手等が競技場へ来た際と帰る際、また、ベンチ等に常備しておき頻繁な消毒を徹底する。
- ・玄関・各ゲート等の出入口と必要な競技場所に消毒液を設置し、選手・競技役員・関係者の消毒を促す。競技前後の動線を示し、密を回避する。
- ・共用の器具に触れる種目では競技前に手を消毒し、競技後にまた手を消毒するという方法を取る。競技後手洗い等でのタオルの使い廻しは厳禁とする。

例) 100m：スタート前に手を消毒→スタブロに触れる→ゴール後に手を消毒

砲丸投：投擲前に手を消毒→砲丸を投げる→1投投げる毎に手を消毒

⑪ 救急・救護体制について

- ・大会中、救護室に医療関係者が常駐する。
- ・医療関係者の指示の下、救護室の他に隔離室を設け、環境を整備する。
- ・近隣の医療機関と連携し、必要な場合はすぐに搬送できるようにする。

⑫ 撮影制限について

- ・T I Cにて撮影許可証を預かり、常に提示できる者のみ撮影を許可する。使用後はT I Cに返却すること。

⑬ 報道関係について

- ・報道関係者についても体調管理チェックシートの提出を義務付け、事後の健康チェックも継続する。4日以上症状が続く場合はスポーツ協会に連絡する。